

1 法人の概要

1) 沿革

昭和15年12月28日	財団法人村上学園設置認可
16年 4月 1日	布施高等女学校開校
22年 4月 1日	布施高等女学校附属中学校開校
23年 4月 1日	新制高校の発足により布施学院高等学校と改称
24年 2月15日	布施女子高等学校、同中学校と改称
26年 3月13日	財団法人村上学園は学校法人村上学園となる
28年 4月22日	学校法人村上学園布施女子高等学校附属幼稚園開園
38年 4月 1日	学校法人村上学園柏原女子高等学校開校
39年 1月25日	学校法人村上学園柏原高等学校と校名変更、男子部を併設
40年 1月25日	布施女子短期大学（42年4月、東大阪短期大学と校名変更）家政科設置認可を得、開学
41年 1月25日	布施女子短期大学保育科を増設
43年 4月 1日	家政科を家政学専攻と食物栄養学専攻に分離認可
44年 4月 1日	保育科を幼児教育学科に改称（47年3月廃止）
45年 2月 9日	児童教育学科設置認可を得、同年4月1日開設
45年 4月 1日	家政学専攻を服飾デザイン専攻に改称 柏原高等学校、女子部を廃止
48年 4月 1日	児童教育学科を初等教育学と幼児教育学に専攻分離
63年 3月31日	東大阪中学校廃校認可を得、廃校
平成11年 7月28日	児童教育学科の初等教育学専攻の募集停止届出
12年 3月 1日	家政学科に生活福祉専攻設置認可を得、同年4月1日開設
13年 3月31日	児童教育学科の初等教育学専攻廃止届出
13年 5月15日	校名変更認可、平成14年4月から東大阪高等学校を敬愛女子高等学校と改称
14年 4月 1日	児童教育学科を幼児教育学科に、服飾デザイン専攻を生活デザイン専攻に名称変更
14年12月19日	東大阪大学設置認可、平成15年4月1日開学 校名変更認可、平成15年4月から東大阪短期大学を東大阪大学短期大学部と改称
15年 1月24日	校名変更認可、平成15年4月から東大阪短期大学附属幼稚園を東大阪大学附属幼稚園と改称
15年 4月 1日	東大阪大学こども学部こども学科開学
18年 4月 1日	敬愛女子高等学校を東大阪大学敬愛高等学校に名称変更 柏原高等学校を東大阪大学柏原高等学校に名称変更

			東大阪大学短期大学部家政学科を健康福祉学科に、食物栄養学専攻を健康栄養専攻に名称変更
			家政学科生活デザイン専攻を平成18年度より募集停止
19年	3月31日		家政学科生活デザイン専攻廃止届出
22年	3月31日		東大阪大学敬愛高等学校商業科廃止
22年	4月1日		健康福祉学科を健康栄養学科に名称変更
			健康栄養学科生活福祉専攻を平成22年度より募集停止
23年	3月31日		健康栄養学科生活福祉専攻廃止
23年	4月1日		東大阪大学こども学部アジアこども学科開設
28年	4月1日		東大阪大学短期大学部健康栄養学科を実践食物学科に、幼児教育学科を実践保育学科に名称変更
30年	4月1日		東大阪大学短期大学部介護福祉学科開設
令和3年	4月1日		東大阪大学こども学部アジアこども学科を国際教養こども学科に名称変更

2) 設置する学校・学部・学科 (令和3年度)

- (1) 東大阪大学 こども学部 こども学科
国際教養こども学科
- (2) 東大阪大学短期大学部 実践食物学科
実践保育学科
介護福祉学科
- (3) 東大阪大学敬愛高等学校 普通科 (全日制課程)
- (4) 東大阪大学柏原高等学校 普通科 (全日制課程)
- (5) 東大阪大学附属幼稚園

3) 当該学校・学部・学科の学生数 (令和3年5月1日現在)

学校名	学部・学科名	学生・生徒数
東大阪大学	こども学部	313
東大阪大学短期大学部	実践食物学科	97
	実践保育学科	96
	介護福祉学科	131
東大阪大学敬愛高等学校	普通科	602
東大阪大学柏原高等学校	普通科	559
東大阪大学附属幼稚園		288
合計		2,186

4) 役員 の概要 (令和4年4月1日現在)

(1) 役員 理事 7人、監事 2人 (任期: 令和7年7月3日【7-1-1 除く】)

寄附行為	役職名	氏名
7-1-2	理事長	村上 靖平
7-1-2	理事	栗岡二三子
7-1-3	理事	佐伯 勇
7-1-3	理事	筒井 宣興
7-1-1	理事	吉岡真知子
7-1-2	理事	金治 延幸
7-1-3	理事	別所諭貴夫
8	監事	中道 均
8	監事	室井 博子

(2) 評議員 15人 (任期: 令和7年7月3日)

寄附行為	氏名	寄附行為	氏名
21-1-2	栗岡二三子	21-1-1	山田ゆかり
21-1-1	村上 靖平	21-1-1	森内 徹
21-1-3	妻野 京子	21-1-1	出口 和隆
21-1-3	吉岡真知子	21-1-1	新 浩幸
21-1-3	別所諭貴夫	21-1-1	小林 康行
21-1-3	西田 眞男	21-1-1	南方 孝一
21-1-3	金治 延幸	21-1-3	宮里 円香
21-1-3	三浦 常治		

5) 教職員の概要 (令和3年5月1日現在)

	教員		職員		合計
	専任	非常勤	専任	非常勤	
法人部門	0	0	13	10	23
東大阪大学	25	25	15	9	74
東大阪大学短期大学部	31	37	14	5	87
東大阪大学敬愛高等学校	45	11	6	7	69
東大阪大学柏原高等学校	48	11	10	11	80
東大阪大学附属幼稚園	18	2	6	5	31
合計	167	86	64	47	364

2 令和3年度事業計画における進捗状況等

1. 教科指導の充実について

イ) 敬愛 ICT 化

- ・本年度から1学年全員がタブレットを使用となり、「クラスルーム・クラッシー」等のアプリを活用し、授業はもとより、新型コロナウイルス感染症により出席停止になった生徒や教員・また、入国できなかつた留学生に対するオンライン授業でも十分な活用ができた。来年度以降、各教科の必要なアプリの選定が必要となってくる。

ロ) 小テスト

- ・「基礎力診断テスト」のDゾーンに該当する生徒が減少し、ベネッセより「確実にDゾーンの生徒が減り続けている学校は全国的にも稀」と分析されている。
- ・問題作成や放課後の補習等で担当者・担任の負担が大きいので検討が必要。

ハ) 総合的な探究の時間

- ・今年度より、「進路」「ホスピタリティ」「課外活動」の3分野に分けて、担任に取り組んでもらった。ホスピタリティでは、担当教員が授業内容を事細かに計画・準備をしたことで、担任による授業内容の差がでず、充実した時間となったと感じる。しかし、担当教員の資料作成には、非常に負担が多いという問題がある。また、今年度は全学年一斉に同じ内容の「ホスピタリティ」の授業を実施したため、3年間を通して学んでいく授業計画を新1年生では導入することを検討する必要がある。

2. 生徒指導について

イ) 問題行動の指導案件

- ・指導案件数は、イエローカード指導の充実や担任・生徒指導からの啓蒙活動により年々減少傾向を示している。しかし、SNSでの事案が若干増加し、内容が複雑になってきている。規範意識（校内）は、年々向上していると言えるが、校外でコロナ対応を含む規範意識の向上がより学校生活に結び付くと考えられる。

ロ) イエローカード指導

- ・飛躍的に減少し、学校全体、各学年の取り組みの成果が現れ、規範意識が向上した。

ハ) その他

- ・今年度より休息時のスマートフォン・携帯使用を許可したが、大きな問題は無かった。生徒の規範意識が高まり、先生方の事前指導が周知された成果である。しかし、SNSの無断投稿などが、今後増加すると思われるため、授業担当者がiPad/スマホを活用して使用方法などを指導する必要がある。
- ・頭髪指導のツーブロックの一部許可など、メリハリのある指導に向けて、校則の抜本的な見直しが急がれる。

ニ) 生徒相談（保健室含む）

- ・保健室来室者数が怪我・体調不良者に加え、自身の性質により生活面で問題を抱える生徒、家族との関係、友人関係、心因性の体調不良など、心身の不調での来室や対応が多くあった。各関係の先生方と対応を強化した。（増加傾向）
- ・相談内容は、学校生活への不安、心因性の体調不良などの悩みが中心。

- ・対応については、管理職、学年主任、学級担任、保健室と連携。
- ・保護者とも面談し、情報共有、専門機関への受診の依頼、学校での対応等説明。
- ・相談係として、継続的に面談し、保健室でも長期継続的な相談対応をするケースがあり、生徒の傾向としては特に変化はみられない。
- ・東大阪大学のカウンセラーと継続的に連携し、管理職・学年主任・担任・保健室でケース会議を行い、本人への理解を深め、具体的な対応や、支援の方針について検討し、チーム対応に繋げていくことができた。
- ・令和4年度よりスクールカウンセラーを導入し、生徒・保護者が安心して通学できる環境を作りたい。相談係は人権教育に移動する。

3. 生徒会活動について

○新型コロナウイルス感染症の影響はあったものの、感染症対策を徹底することで、極力行事は実施した。

イ) 実施行事として

① クラブ紹介

- ・クラブ紹介冊子のデジタル化等

② スポーツ大会

- ・観戦の制限（ズームで教室での観戦）
- ・クラスTシャツデザイン賞(クラス動画作成・クラッシーでの投票)

③ 体育祭

- ・2年目のラクタブドームでの実施は生徒・保護者ともに好評であった。体育科と連携し感染症対策を講じた競技を考案し実施した。今後も体育科との意見交換をより密に行い、より良いものにしていきたい。
- ・昨年度の団体演舞の内容を引き継ぎ、「応援団演舞」に改め実施した。団員の定員を設けたが参加希望者が多く、定員を超えた団もあった。
- ・全体の進行や応援生徒の集合や召集においては良かったと思われる。召集場所を2箇所にすることでよりスムーズな移動が行えた。感染症対策については生徒・教員・保護者の協力のもと改善点はあるが徹底できた。
- ・ドームでの実施は雨天でも変更なく実施できる点ではとても良かった。体調不良・ケガをする生徒がとても少なかった。
- ・生徒の召集もスムーズであったことから、次年度は1人2競技のエントリーでも良いと思われる。
- ・予行を実施したことにより臨機応変に教員間で対応できた。予行時に体育館での役割にあたっていなかった教員への説明も必要だった。
- ・デジタルパンフレットは大幅な経費削減になった。一部希望者には紙でも対応できるため、今後もデジタルパンフレットで続けていきたい。

④ 敬愛祭

- ・従来の敬愛祭に近いものが実施でき、生徒が楽しめていた点では非常に良かった。

- ・ 体育祭の日程変更により体育祭から敬愛祭までの間隔が短くなってしまい、各クラスで模擬店やコース展示などの準備期間が短くなった。
- ・ 模擬店については大きな問題なく実施できたが、感染症対策の点では改善が必要である。
- ・ 敬愛祭当日の体育館での演芸の集客に課題がみられる。観覧者があまりいない時間もあつたため、何かしらの方法で宣伝をする必要があるように感じた。
- ・ 吉本演芸鑑賞、K I グランプリは生徒の鑑賞態度が良く、演技に賞賛する姿もあり良かった。指導される生徒もいなかった。拍手も自然とおこり、生徒の感想はとても高かった。
- ・ 準備期間が必要であり、1学期中の詳細決定・連絡が望ましい。
- ・ デジタルパンフレットは大幅な経費削減になった。一部希望者には紙でも対応できるため、今後もデジタルパンフレットで続けていきたい。

⑤愛の募金活動、赤十字献血事業

- ・ 今年度は模擬店を実施できたため、売り上げの一部を愛の募金として寄附することができた。この取り組みは長年続けており、東大阪市地域福祉課からも毎年感謝状をいただいているため、絶やすことなく続けていきたい。
- ・ 初めての取り組みとして高校に献血車を呼び、赤十字献血事業を行う予定であった。申込は定員を大きく上回り、生徒の献血への関心の高さが感じられた。直前にコロナ感染者が校内で出てしまったことにより、安全性確保のために延期となったが、次年度に向けて計画をしていきたい。

⑥クラブ活動

- ・ 感染症対策を徹底して行い、ほとんどのクラブで活動を中止することなく行うことが出来た。練習前の更衣や昼食場所、クラブハウスでの過ごし方などのルールは各部任せになってしまうが徹底して行う必要があると感じた。
- ・ 通常通り開催された大会が多数あり、体育部・文化部ともに活躍し、活性化してきた。
- ・ クラブハウスの増設について、具体的な案はいくつか出ているが進んでいない。予算面での課題が多くあるが、できる限りはやく実現させたい。

4. 進路指導について

3年生在籍186名

コース		在籍	四年制大学	短期大学	専門学校	就職	留学	その他 (浪人・未定含む)
普通科	総合進学	118	57	6	41	9	1	4
	こども学	24	15	7	2	0	0	0

	調理・製菓	44	6	5	25	6	0	2
合計		186	78	18	68	15	1	6
%			42%	10%	36%	8%	1%	3%
		進学合計 164 名 (88%)						

進路全体の総括

令和3年度の進路状況は、昨年度と比べ、全体の進学率は上昇し、大学5.5%減、短期大学4.8%減、専門学校11.6%増となった。就職希望生徒は減少傾向。未決定者数は前年度より減少した。

昨年度との差異としては、専門学校への進学者が昨年度より高かった。総数としては昨年度より減少しているが、総数が少ないため割合は増加した。それに伴い進学合計は0.4%増加。短大進学者は実数・割合ともに大幅に減少した。また、内部進学者数は、28名で、21名の減少となった。進学者の多くが内部推薦、指定校推薦、AO入試・総合型選抜等を利用して受験した。昨年度との違いとしては、今年度は例年に比べ大学入学共通テストの受験者も増加し、公募制推薦での受験もチャレンジする生徒が多く見られた。就職者数については、昨年度より5名減の15名であった。コロナ渦において生徒の動きが大きく制限され、進路の意思決定が難しい状況となったが、未決定者は昨年度よりも減少した。また、就職に関する状況は、昨年度に比べ改善された。コロナにおいて募集が減少傾向にあった、飲食業界・ホテル業界の求人も戻りつつある。また次年度以降、就職受験2社制が導入される見込みだが、本校生徒に不利にならないように、企業決定の早期化等を検討していきたい。

5. 入試広報について

イ) 募集

中学校訪問

- ・ 募集担当として、管理職1名と教員7名が各30～80校を年1～6回訪問した。昨年度と違い今年度は近隣校に重点を置き訪問したため、1回しか訪問できない中学校もあった。受験者数が増えたため、来年度も近隣校を重点的に訪問するようになりたい。
- ・ 昨年度に比べて募集係の人数を増員したため、一人ひとりの担当校が減り、充実した募集活動ができたように思う。
- ・ 新コース誕生、新制服リニューアルということもあり、昨年度まで訪問していなかった吹田エリアにも訪問し募集活動を行った。おおさか東線沿線の中学校は非常に興味を持っていただけたが、そうでない中学校は反応が少なく、訪問する中学校を市内で精査する必要があると感じた。
- ・ 繋がりを作るという点から、担当校と担当者はできる限り変更しないよう、来年度も継続するのがよいと思われる。
- ・ 中学校説明会は新型コロナウイルスの影響もあり、2校が中止となった。八尾市高美中学校の出前授業はすべてのコースの出前授業を実施でき、高美中学校からの受験者

数も大幅に増加したため、来年度も積極的に参加していきたい。

塾訪問・塾長対象入試説明会

- ・今年度は全教員で担当し、1人3塾ほど回った。新コースの内容の決定を待っていたため学校案内の完成が例年より遅れ、塾訪問の時期も遅れてしまった。塾訪問は毎年の課題であるが、来年度は塾訪問担当者を専属で雇用するなど、塾訪問強化の対策が必要であると感じる。
- ・昨年同様塾長対象入試説明会を学校で実施した。参加人数が少なかったこと（昨年度40名、今年度34名）が課題であるが、内容的には生徒と教師によるコース説明や卒業生の声、制服ファッションショーなど、塾の先生方に本校のことをよりよく知っていただけたのではないかと思う。

今年度も発送代行を利用し、多くの塾に塾長対象説明会の案内が届くようにしたが、思うように参加人数が伸びず、塾長対象説明会の周知方法は課題である。また、コロナウイルス感染対策で来ることができなかつた塾長先生のためのオンライン配信等も検討が必要である。

ロ) 広 報

SNS・HP

- ・今年度から新たに「Instagram」、「Twitter」、「YouTube」のアカウントを作成し広報活動を行った。

オープンスクールなどでフォロー企画を行い、Instagramのフォロワー1,000人を目標にしていたが、12月時点で約600名と目標達成には至らなかった。現在投稿している内容は、フォローをしてくれている中学生や保護者にとっては本校の魅力を知ってもらえるが、新たなフォロワー獲得を考えたときに、生徒の学校生活の様子では代わり映えのない写真や投稿になってしまっているため、フォロワー数が伸び悩んだのではと考える。来年度は4月当初の投稿は「インスタ映え」を意識し、本校の魅力を伝えるなど戦略をたてて有効的にSNSを活用していきたい。

学校案内・チラシ・ポスター

- ・昨年度に引き続き「Beside you キミに寄り添う敬愛」キャッチフレーズを採用し、学校案内やポスターで前面にPRした。しかしながら、新コースや新制服の完成を待ってからの撮影となったため、完成時期が8月初旬とかなり遅くなってしまった。来年度はもう少し納期を早める方向で制作する必要がある。

オープンスクール・入試説明会

- ・すべて予約制で実施した。（午前200名、午後200名）昨年度の参加者約1500名と比べ、今年度は約1800名と増加した。
- ・内容としては、生徒主体のプログラムになるよう工夫した。非常に協力的な生徒が多く、大変ありがたかった。アンケートでも生徒を褒めていただくことが多く、来年度も協力を求めたい。
- ・公立高校もオープンスクールに力を入れている傾向になり、中学生にとってはオープ

ンスクールを自身の進路と結びつけるというよりは、楽しい体験型のイベントとして捉えているのではないだろうか。そのために、一人の中学生が多くの学校のイベントに参加していると考えられる。1 回のオープンスクールで魅力を伝えていけるよう内容を検討しなおす必要がある。

冬休み受験集中講座

- ・ 昨年同様、1 日開催で実施、内容も各教科分野別にし、中学生の選択制で実施した。中学生の評判は非常に良く、来年度も同じような方法で実施していきたい。

Keiai レター

- ・ 今年度は全校生徒と進路決定版と 2 種類のレターを制作することができた。来年度も同じように継続していきたい。

私学展や相談会

- ・ 私学展は昨年同様 3 日間開催、教員は 3 人体制で実施。相談件数は、1 日目 34 件、2 日目 39 件、3 日目 24 件 計 97 件で昨年度と比べると微増であった。（昨年度 1 日目 18 件・2 日目 35 件、3 日目 29 件）天満橋駅にポスター掲載、清水希容さんの銀メダル獲得のぼり、デジタルサイネージの効果に期待し、相談件数 200 名を目標にしていたが、目標達成には至らなかった。
- ・ 外部の相談会には 4 件参加したが、相談件数が 10 件未満のものもあった。しかし、大手の塾主催ということもあるため、来年度もなるべく参加したい。

令和 4 年度の入試結果は、受験者数は専願 222 名（昨年度より+52 名）、併願 463 名（昨年度より+76 名）、昨年度より 128 名の増加となった。新コース、新制服の効果もあり、受験者数が増えることは予想できた。今後も本校の魅力を伝えることができるよう広報活動は行っていく。

6. 留学支援部

本年度は 69 名の在籍（一昨年 122 名、昨年 84 名）となった。新型コロナウイルス感染症の影響を受け、減少が続いている。緊急事態宣言、まん延防止等重点措置、新規入国拒否などの国の施策により、1 年間入国することができず、4 月生、10 月生へのオンライン授業実施などの対応に追われることが多かった。

3 財務の概要

別添 令和 3 年度	資金収支計算書
	事業活動収支計算書
	貸借対照表
	財産目録
	監査報告書
	参照